

# まごころこめて磨き合う なまづっこ



「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」

～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2024.4.30 発行

## 新年度が始まって1か月

366名の子どもたちとスタートして、約1か月が過ぎました。

「おはようございます！」子どもたちの元気いっぱいのおいさつで、生津小の一日が始まります。登校後、不安げな1年生の子に「1年生は、ここを通過して教室へ行くよ。」と、腰をかがめ目線を合わせながら優しく声を掛ける6年生。困っている仲間に寄り添う姿に、最高学年としての自覚とあたたかさを感じています。こういった一つ一つの行動が、優しさあふれる生津小学校につながっていきます。

### 学校のために

4月19日(月)に「認証式」が行われました。前期の企画委員と学級代表の紹介を行い、各委員長には、校長先生から認証状が授与されました。生津小学校のリーダーとしての自覚が、「はい」というさわやかな返事や、きりっと背筋の伸びた姿勢に表れていました。委員会活動を通して、どのような生津小学校にしていきたいのか、語りかける委員長の言葉は、やる気にあふれたものでした。よりよい学級や学校を目指した活動に、今後も期待しています。

### 月目標をやりぬく

4月5月の学習目標「話し手を見て反応しながら聞こう」を達成させようと取組を行っています。課題をはっきりととらえて自分の考えをつくり、仲間と交流し、自分の考えをさらに深めるためには、まず、仲間の話をよく聞くことが大切です。『目ビームで話を聞く』『仲間の話が終わったらサンドサインで応える』など、学級で決めたためあての成果が出始めています。

5月11日(土)の参観日には、お子さまの成長した姿をぜひ見てください。



ドロシー・ロー・ノルトの著書『子どもが育つ魔法の言葉』(1998年刊・アメリカ)は、22カ国語に翻訳され、世界中で多くの共感を呼び、ミリオンセラーとなりました。その中に掲載されていた詩「子は親の鏡」は37カ国語に翻訳されました。今から25年も前の詩ではありますが、改めて紹介します。学校でも一人一人の良いところをたくさん褒め、価値づけていきます。

- けなされて育つと、子供は、人をけなすようになる
- とげとげした家庭で育つと、子供は、乱暴になる
- 不安な気持ちで育てると、子供も不安になる
- 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子供は、みじめな気持ちになる
- 子供を馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
- 親が他人をうらやんでばかりいると、子供も人をうらやむようになる
- 叱りつけてばかりいると、子供は、「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- 励ましてあげれば、子供は、自信をもつようになる
- 広い心で接すれば、キレる子にはならない
- 誉めてあげれば、子供は、明るい子に育つ
- 愛してあげれば、子供は、人を愛することを学ぶ
- 認めてあげれば、子供は、自分が好きになる
- 見つめてあげれば、子供は、頑張り屋になる
- 分かち合うことを教えれば、子供は、思いやりを学ぶ
- 親が正直であれば、子供は、正直であることの大切さを知る
- 子供に公平であれば、子供は、正義感のある子に育つ
- 優しく、思いやりをもって育てれば、子供は、優しい子に育つ
- 守ってあげれば、子供は、強い子に育つ
- 和気あいあいとした家庭で育てば、子供は、この世の中はいいところだと思えるようになる

